

2025年度 第2四半期 決算説明資料



2025年11月12日

株式会社三井E&S



■ 2025年度 第2四半期 決算説明

	頁
➤ 概要	3
➤ 2025年度 第2四半期 決算概要	4
➤ 2025年度 第2四半期 連結貸借対照表の概要	5
➤ 2025年度 第2四半期 連結キャッシュ・フローの概要	6
➤ 2025年度 第2四半期 セグメント別決算概要	7-10

■ 参考資料

	頁
➤ 設備投資・研究開発費・従業員数	16
➤ 舶用エンジンの状況	17

■ 2025年度 見通し

➤ 2025年度 連結業績通期見通し	11
➤ 2025年度 セグメント別業績通期見通し	12
➤ 2025年度 第2四半期 進捗状況	13

■ トピックス

➤ 三井-PACECOポーターナの累計出荷500基を達成	14
➤ 株価の推移	15

※ ・売上・営業利益を順調に積み上げて増収増益

・景気の下振れリスクが緩和されつつあることも踏まえ、営業利益の2025年度見通しを上方修正

2025年度 第2四半期 決算概要

◆ 受注高	1,460 億円	(前年同期比 )
◆ 売上高	1,655 億円	(前年同期比 )
◆ 営業利益	198 億円	(前年同期比 )

2025年度 見通し

◆ 受注高	3,000 億円	(前回発表見通し比 )
◆ 売上高	3,400 億円	(前回発表見通し比 )
◆ 営業利益	300 億円	(前回発表見通し比 )

トピックス

- ◆ 三井-PACECOポーテナーの累計出荷500基を達成
- ◆ 株価の推移

2025年度 第2四半期 決算概要

(単位：億円)

	24年度 2Q累計	25年度 2Q累計	増減
受注高	1,707	1,460	△247
売上高	1,450	1,655	+205
営業利益	92	198	+106
営業利益率	6.4%	12.0%	-
経常利益	133	227	+94
経常利益率	9.2%	13.7%	-
親会社株主に帰属 する中間純利益	323	175	△148

<期中平均為替レート>

	24年度 2Q累計	25年度 2Q累計
USドル	150.32円	146.79円

■ 受注高

前年同期に、船用推進システム部門において大型船用エンジンの複数基一括受注があったことなどにより、前年同期に比べて減少した。

■ 売上高

中核事業部門に加えて、周辺サービス部門などにおいても、豊富な手持ち工事が着実に進捗したことなどにより、前年同期に比べて増収となった。

■ 営業利益

船用推進システム部門、物流システム部門において、売上高増加および生産効率化による原価低減などにより、前年同期に比べて大幅な増益となった。

※ 中間純利益

前年同期に、関係会社株式売却益があったことなどにより、前年同期に比べて減益となった。

2025年度 第2四半期 連結貸借対照表の概要

※ 着実な利益の積み上げにより、自己資本比率が向上

(単位：億円)

	24年度	25年度2Q	増減	
資産合計	4,492	4,545	+52	
(現金及び預金)	354	449	+95	
(受取手形、売掛金及び契約資産等)	1,079	948	△132	主にコンテナクレーンの売掛金回収による減少
(棚卸資産)	699	766	+66	
(有形・無形固定資産)	1,303	1,266	△37	
(投資有価証券)	297	368	+72	
負債合計	2,751	2,592	△159	
(支払手形及び買掛金等)	591	578	△14	
(契約負債)	442	531	+89	主に船用エンジンの受注に伴う前受金の増加
(有利子負債)	978	830	△148	短期借入金および長期借入金の返済による減少
うち短期借入金	540	434	△106	
うち長期借入金	438	396	△42	
純資産合計	1,742	1,953	+211	
(自己資本)	1,698	1,909	+211	主に利益剰余金の積み上げによる増加
(自己資本比率)	37.8%	42.0%	-	
運転資本(*)	701	579	△122	
D/Eレシオ	0.6倍	0.4倍	-	

(*) 運転資本 = 売上債権 (除く前受金) + 棚卸資産 - 仕入債務

2025年度 第2四半期 連結キャッシュ・フローの概要

※ コンテナクレーンの売掛金回収や、船用エンジンの受注に伴う前受金の増加などにより、営業キャッシュ・フローが大幅に改善

(単位：億円)

	24年度 2Q累計	25年度 2Q累計	増減	
営業CF	41	252	+211	25年度2Qは、コンテナクレーンの売掛金回収や、船用エンジンの受注に伴う前受金の増加などにより、252億円の黒字。
投資CF	662	23	△639	24年度2Qの662億円は、主に関係会社株式の売却による収入。
フリーCF	703	275	△429	
財務CF	△675	△ 177	+498	25年度2Qおよび24年度2Qは、主に短期借入金の返済による支出。

2025年度 第2四半期 セグメント別決算概要

※ ・主要な4部門において増収増益

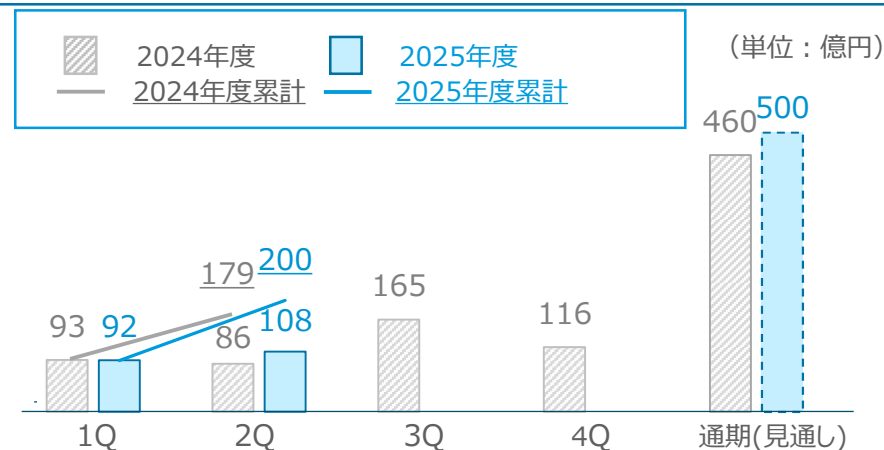
・船用推進システム部門、物流システム部門の営業利益は大幅に改善

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	24年度 2Q累計	25年度 2Q累計	増減	24年度 2Q累計	25年度 2Q累計	増減	24年度 2Q累計	25年度 2Q累計	増減
成長事業推進	179	200	+21	152	179	+27	17	29	+12
船用推進システム	894	628	△266	674	751	+78	42	90	+47
物流システム	367	328	△39	268	311	+42	24	67	+43
周辺サービス	265	303	+37	341	413	+73	5	17	+12
その他	1	1	0	15	1	△14	4	△4	△8
合計	1,707	1,460	△247	1,450	1,655	+205	92	198	+106

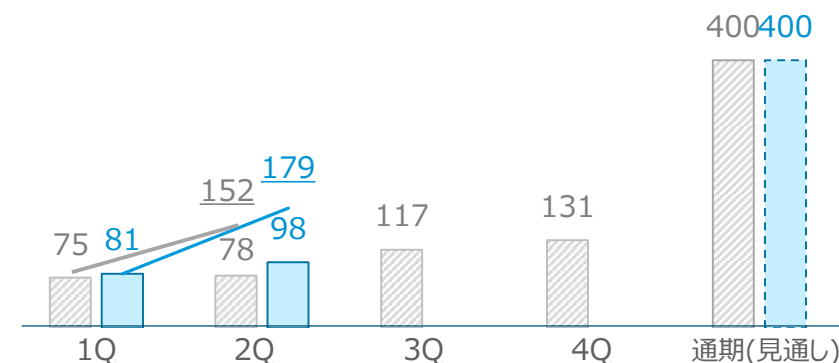
■ 受注高：前年同期比 +21億円

化学プラント向けの往復動圧縮機や反応器などを受注したことや、子会社において陸用ディーゼル発電装置が順調に推移したことなどにより、前年同期に比べて増加した。



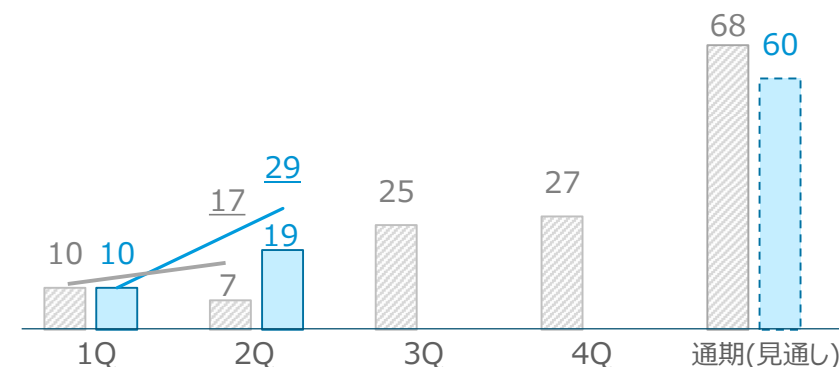
■ 売上高：前年同期比 +27億円

高炉用送風機などの手持ち工事が着実に進捗したことや、アフターサービス事業が堅調に推移したことなどにより、前年同期に比べて増収となった。



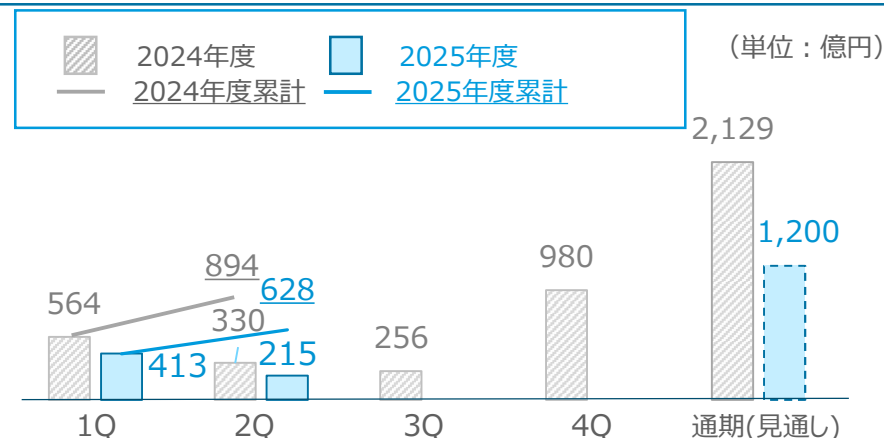
■ 営業利益：前年同期比 +12億円

産業機械製品の売上高増加と、顧客密着型営業活動の推進によるアフターサービス事業の充実により、前年同期に比べて増益となった。



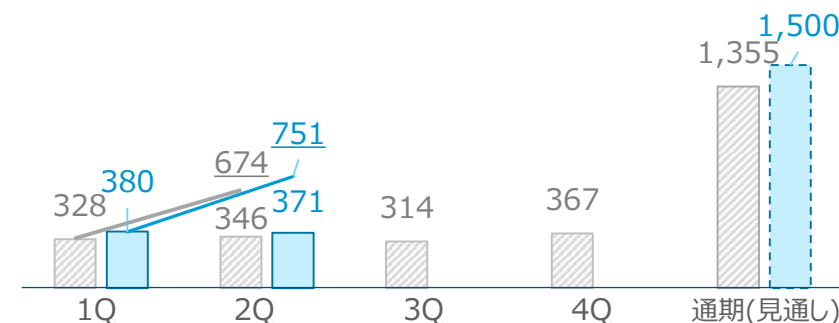
■ 受注高：前年同期比 △266億円

前年同期に大型船用エンジンの複数基一括受注があったことから、前年同期に比べ減少したが、二元燃料エンジンを含め、船用エンジンの需要は引き続き旺盛であり、順調に受注を積み上げた。



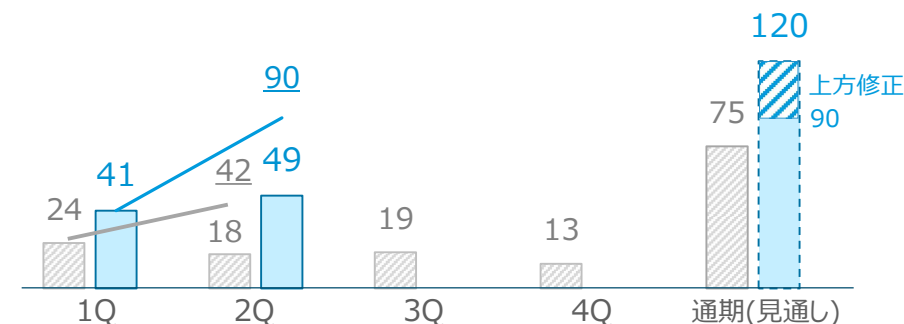
■ 売上高：前年同期比 +78億円

脱炭素社会の実現に向けた船用燃料であるLNGやメタノールを用いた二元燃料エンジンの増加などにより、前年同期に比べて増収となった。



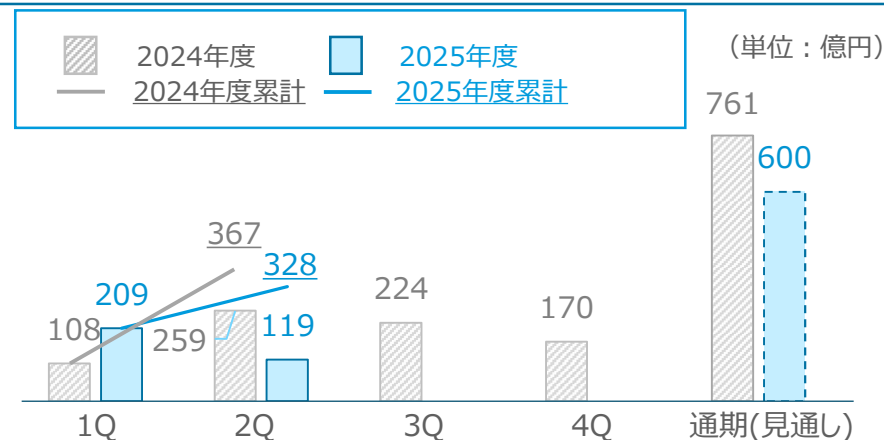
■ 営業利益：前年同期比 +47億円

売上高の増加に加えて、原価低減を実施したことや、アフターサービス事業が好調に推移したことなどにより、前年同期に比べて大幅な増益となった。



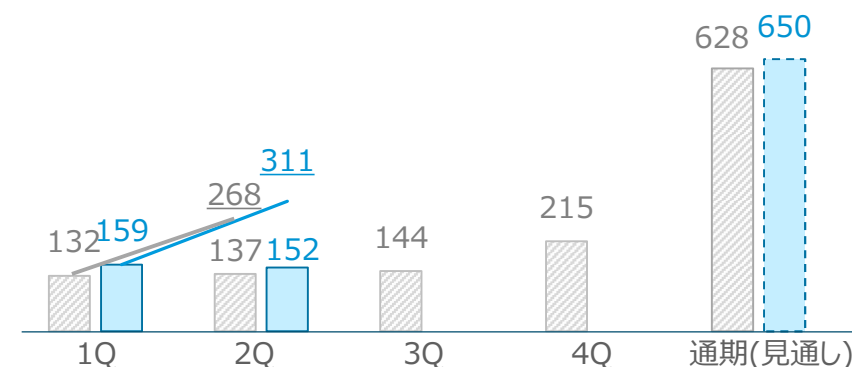
■ 受注高：前年同期比 △39億円

前年同期にベトナム向け大型案件の受注があったことなどから、前年同期に比べて減少したが、東南アジア向け大型案件を受注するなど、需要は引き続き堅調。



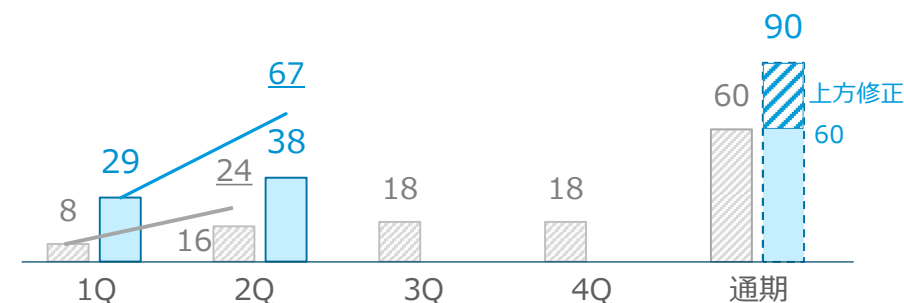
■ 売上高：前年同期比 +42億円

前年度までの2年間で過去最高受注高を連続更新し、豊富な手持ち工事を抱える中、海外向け大型案件が順調に進捗したことなどから、前年同期と比べて増収となった。



■ 営業利益：前年同期比 +43億円

高操業を背景とした売上高の増加や、設備投資効果によって生産効率を高めたこと、および原価低減によって海外向け大型案件の採算が向上したことなどにより、前年同期に比べて大幅な増益となった。



※ 中核事業部門が好調に推移していることから、営業利益を上方修正

(単位：億円)

	期初見通し 2025/5/13	今回見通し 2025/11/12	増減
受注高	3,000	3,000	0
売上高	3,400	3,400	0
営業利益	240	300	+ 60
経常利益	230	310	+ 80
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	260	+ 60
フリーCF	160	110	△50
有利子負債	950	950	0

※ 前提為替レート US\$ = 145円

※ USドル1円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

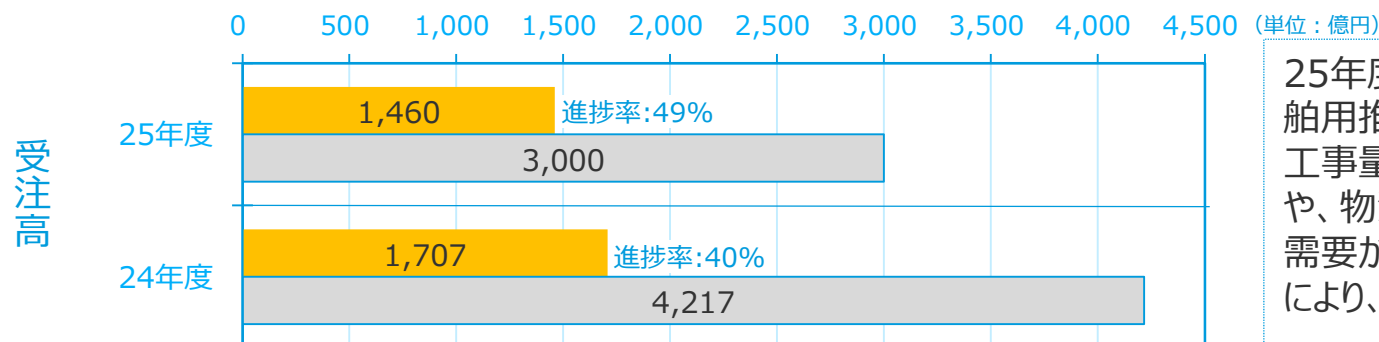
2025年度 セグメント別業績通期見通し

※ 船用推進システム部門および物流システム部門において、豊富な手持ち工事を背景に、原価低減を進めたことにより、営業利益を上方修正

(単位：億円)

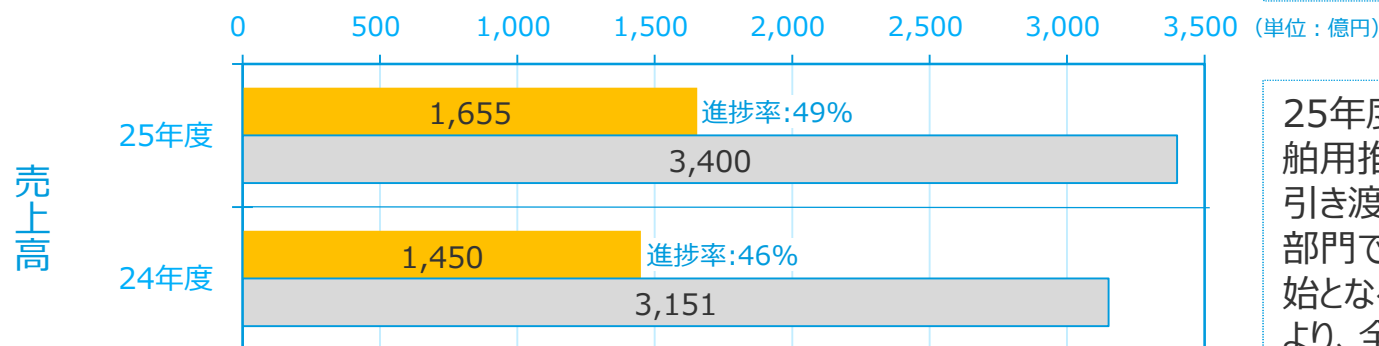
	受注高			売上高			営業利益		
	期初見通し 2025/5/13	今回見通し 2025/11/12	増減	期初見通し 2025/5/13	今回見通し 2025/11/12	増減	期初見通し 2025/5/13	今回見通し 2025/11/12	増減
成長事業推進	500	500	0	400	400	0	60	60	0
船用推進システム	1,200	1,200	0	1,500	1,500	0	90	120	+ 30
物流システム	600	600	0	650	650	0	60	90	+ 30
周辺サービス	700	700	0	850	850	0	30	30	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,000	3,000	0	3,400	3,400	0	240	300	+ 60

※ 受注高および売上高は計画通りに進捗、営業利益は好調により上方修正



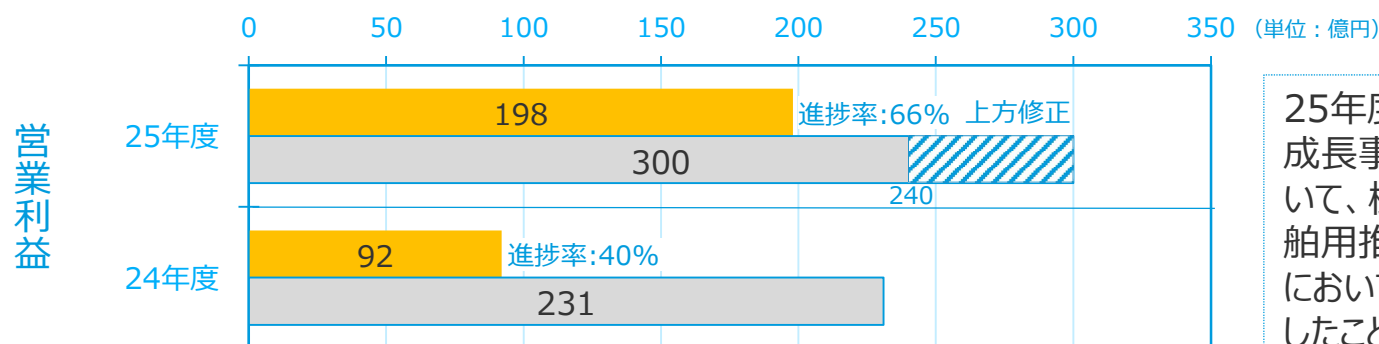
25年度 2Q:

船用推進システム部門が、国内造船所の手持ち工事量の確保を背景として、順調に推移したことや、物流システム部門で、東南アジアにおける需要が堅調であり、着実に案件を確保したことにより、全体的に概ね順調に進捗。



25年度 2Q:

船用推進システム部門において、船用エンジンの引き渡しを着実に進んだことや、物流システム部門で、米国ロングビーチ港向け案件が進捗開始となるなど豊富な手持ち工事が進捗したことにより、全体として概ね順調な進捗となった。



25年度 2Q:

成長事業推進部門および周辺サービス部門において、概ね計画通りの進捗を確保する中、船用推進システム部門および物流システム部門においては、上期実績で当初年度計画を達成したことから、通期見通しを上方修正。

三井-PACECOポーターナの累計出荷500基を達成

※ 岸壁用コンテナクレーン三井-PACECOポーターナの 累計出荷500基目は、 ベトナム Phuoc An Port 向け

＜岸壁用コンテナクレーンの変遷＞

1961年 世界で初めてコンテナクレーンを開発した
米国のPACECO社と技術提携

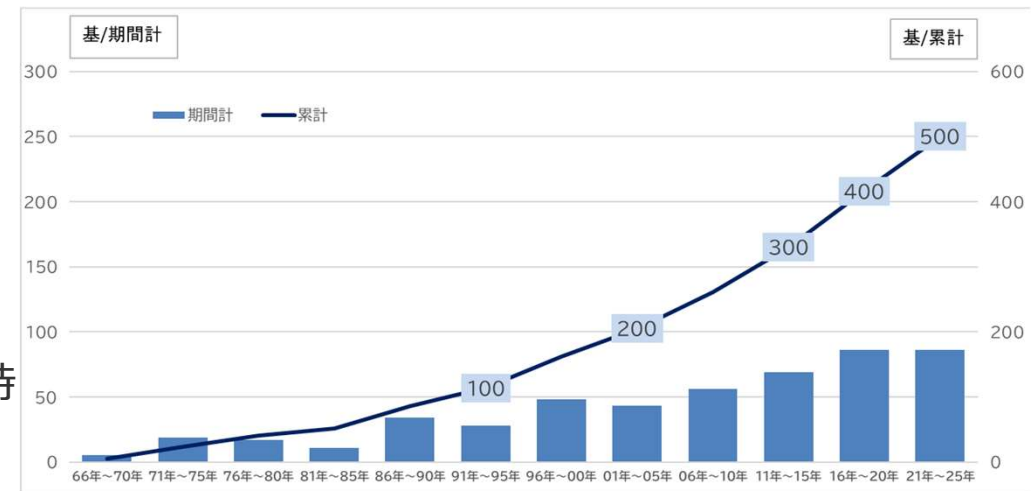
1967年 日本初の岸壁用コンテナクレーンを
神戸・摩耶埠頭へ納入

1973年 初の海外向け岸壁用コンテナクレーンを出荷

以降、半世紀以上にわたり国内外に
多数の岸壁用コンテナクレーンを提供し、
30か国、200以上のターミナルへ納入
市場ニーズに応じて遠隔自動化製品を開発中

2025年 累計出荷500基を達成

海運物流は引き続き堅調に推移しており、当社が注力する
東南アジアや、シェアトップを維持している国内、優位性を維持
する米国の港湾施設において、新設や増設に加えて、
老朽化更新などの需要が継続して見込まれる。



今後も市場ニーズに合わせた高品質で優れた製品を展開し、
コンテナクレーン事業のグローバル市場展開を進める

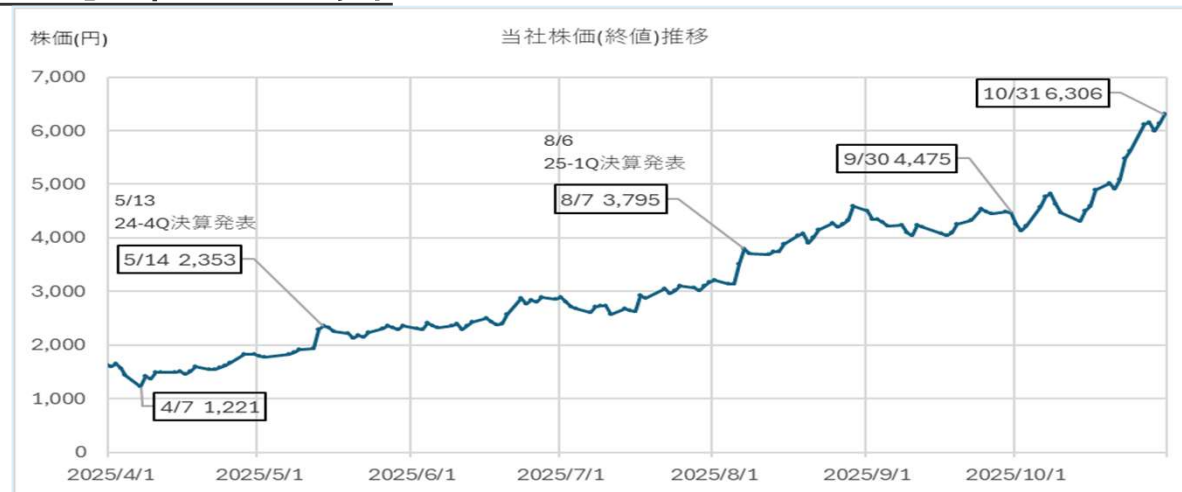
※ 株価は、好調な事業環境および業績回復傾向を反映して、本年4月より上昇基調
9/30時点では4,475円であるが、10/31時点では6,306円となり、
時価総額は、一時6,500億円を超える水準まで上昇

＜事業環境＞

- ・船用推進システム部門は、主要顧客となる国内造船所の手持ち工事量が豊富。
- ・政府による国内造船業再生支援の動きは当社事業にも追い風。
- ・物流システム部門は、アジア地域や国内および米国における新設、増設、老朽化更新などの需要が堅調。

＜業績推移＞

- ・事業再生計画の遂行によって、売上高は、21年度の5,794億円より大幅に減少したが、23年度より回復傾向。
- ・営業利益は、22年度より黒字化し、黒字額も拡大傾向。



(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度 (予想)
売上高	5,794	2,623	3,019	3,151	3,400
営業利益	▲100	94	196	231	300
株価(円)	366	417	1,915	1,644	4,475※
PBR(倍)	0.52	0.38	1.46	0.98	2.37※

※9/30終値

投資家からの期待に応えるべく、引き続き中核事業の成長をはかるとともに、
 新規事業の展開に注力する

※ 市場の需要に応えるための設備投資を着実に実施

	24年度 2Q累計実績	24年度 実績	25年度 2Q累計実績	25年度 計画
設備投資額 (億円)	34	96	47	99
研究開発費 (億円)	6	15	7	21
連結従業員数 (人)	6,078	5,966	6,061	-

※ 豊富な手持ち工事量を抱える中、生産実績も順調に進捗

	24年度 2Q累計		25年度 2Q累計		25年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	62	197	46	103	—	—
売上高	75	156	67	153	—	—
受注残高	107	273	133	368	—	—
生産実績	64	131	69	152	146	316



MITSUMI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。